

## Aoyama Sapience

第37号



青山学院大学 文学部 英米文学科同窓会 会報

2017年7月15日発行

## ■ 巻頭随想 ■

## 同窓会会長に就任して

佐野弘子

去る5月13日の総会において、第6代会長に就任いたしました。英米文学科同窓会は創立20周年を来年に控えており、また、同窓会の母体である英米文学科が創立70周年を再来年に迎えるこの時期に、責任の重さを感じております。

英米文学科卒業生の累計は3万6千名を超えますが、学科のルーツは、青山学院の前身の東京英和学校が1891(明治24)年に設置した英語師範科にまで遡り、以来、幾度の改組を経て、1949(昭和24)年、学制改革により新制大学として開設された青山学院大学文学部英米文学科へと至りますので、長い歴史と伝統のなかでじつに多くの卒業生が輩出したこととなります。

秋元実治前会長のもと(教員)副会長として、これまで限られた時間ではありましたが、同窓会に関わってまいりました。いつも感じ入るのは、同窓会のさまざまな事業のために、役員の方々が骨身を惜しまず尽力さ

れていることです。一般的な表現を用いれば、「縁の下の力持ち」なのですが、母校と同窓の人々を想って献身される姿勢は、まさに青山学院スクール・モットー「地の塩、世の光」を、卒業してから何十年経っても、心に深く刻んで実践されている証しだと思います。同窓会創立のために奔走され発展に貢献された諸兄姉と歴代会長の皆さまの熱意には感服しております。

この機会に「同窓会」を意味する英語 alumni association を辞書で見ました。alumnus(単数形)はラテン語の alere(英語で nourish の意)が語源だということを知り、同窓会を通じて会員同士が育み合うとも、先輩が後輩を育むとも解釈できると思いました。会員が自身の円熟を目指しつつ、母校に学ぶ若者の育成に寄与できるような同窓会のありかたが考えられるのではないのでしょうか。

英米文学科同窓会は、会員相互の知的交流と母校への貢献を目的に



掲げています。講演やセミナーには在校生が無料で参加できるようになっており、卒業式の日には学位記が授与される教室において、ささやかな記念品と同窓会案内を手渡しています。在校生はいずれ卒業して同窓生になるわけですから、同窓会が在校生を支える精神が受け継がれてゆくことが望まれます。校友会をあげて母校への支援態勢を強化する昨今、現に本同窓会も、在校生の勉学を支援する方法を模索しています。同窓会は学科と連携を図りながら、学びと交わりが生涯にわたって持続するような活動ができれば、その存在意義がより増すことと思います。

(青山学院大学名誉教授 '70年卒)

## Sherlock Holmes の英語 (5)

前回で述べた副詞から派生したのものとして、いわゆる談話標識(discourse marker)がある。これは反応詞に近い働きをする。本来の副詞は形容詞や動詞などを修飾することが主たる機能であるが、それが文と文をつなげるような接続詞的な働きから、徐々に文から独立して、後続する文(発話)に関して、話者の主観的な感情表現を示すようになった。

Sherlock Holmes において、最も多く現れる談話標識は 'well' である。実はこの 'well' は既に古英語(700-1100年)に現れており、多くの場合 'la' と共に使われ、'wella' のような形で用いられた。ただし、この頃の意味は現代

のそれとは異なり、相手の注意を引く用法であった、その後、Chaucer や Shakespeare にも現れるが、Holmes の英語においてのような種々の意味で使われるようになったのは初期近代英語(1500-1700年)以降である。

拙書(2017: 115-118)では9通りの意味に使われる 'well' の例を示したが、これらは全部後続には平叙文が使われている例である。実は、後続文にはそれ以外に、疑問文、命令文、if条件文などが続く例もあるが、圧倒的に平叙文が多い。以下平叙文以外の例をあげる。

Sherlock Holmes の英語では、wh(howも含む)疑問文が最も多く、次

いで、命令文、if条件文、疑問文の順である。

- (1) "Well, Watson, what do you make of this?" (The Second Stain: 655)
- (2) "Well, look at this!" (The Speckled Band: 268)
- (3) "Well, if our conjecture is correct..." (The Greek Interpreter: 443)
- (4) "Well, then, is it Bellamy and that big son of his?" (The Lion's Mane: 1092)

'Well' はほとんどの場合、文頭に現れる。平叙文が続く時は多くの場合、話者の気持ちを表すが、これらの例のような場合は多分に相手に関わる対人的(interpersonal)意味合いを持つ。

秋元実治 青山学院大学名誉教授('65年卒)